

桂坂山の手倶楽部だより

(第20号)

平成 22年5月1日発行

桂坂山の手倶楽部だより編集委員会



役員会だより

1. 第4回役員会開催 (2/20)

1. 互礼会は参加者90名と盛況でしたが、会の運営で今後の検討をしました。
2. 小学校支援事業の報告と意見交換をしました。
3. 今年度の活動と反省、次年度の方針を討議しました。

2. 第2回合同会議開催 (3/7)

1. 全体活動、同好会活動、区老連活動の報告と意見交換をしました。
2. 次年度の事業計画につき、意見の交換をしました。
3. 単位倶楽部の編成替えについて検討しました。

3. 第5回役員会開催 (3/20)

1. 第19回総会議案の検討をしました。
2. 総会と親睦会の開催要領を検討しました。

市・区老連だより

1. 囲碁・将棋大会の開催

福利厚生委員 松本 初次

西京区老連主催の囲碁将棋大会が、来る6月12日(土)ふれあい会館で開催されます。

囲碁将棋ともA~Dクラスに分かれ、それぞれのクラスの優勝者は、8月に同じくふれあい会館で開催される京都市老人クラブ連合会主催の囲碁将棋大会に西京区の代表として出場して頂きます。出場の申込は

同好会責任者、上久保 (☎333-0100)

福利厚生委員、松本 (☎393-8702)

のいずれかに、お申し込み下さい。

また、区老連では10月25日~26日、一泊旅行を計画しています。行き先が決まり次第ご案内させていただきます。

いじめごらい

新緑の美しい好季節となりました。

会員の皆様には、ご健勝のことと存じます。

平素は、山の手倶楽部の運営にご協力いただき有難うございます。

さて、四月十七日(土)の山の手倶楽部第十九回総会において、今年度も引き続き会長に就任させていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

市・区老連では老人クラブの会員の減少で悩んでおられますが、山の手倶楽部は年々会員が増加しており大変喜んでおります。

これも仲良く、楽しく、朗らかにをモットに十六の同好会が魅力ある内容で活発に活動されているからだと思えます。

スポーツにおいても、区老連では優秀な成績を

上げておりますし、趣味、習い事では毎年開催しております作品展も素晴らしい作品が多く、充実し



た内容で各方面から賞賛されております。

地域での活動では桂坂小学校の

子供とのふれあい、放課後まなび教室の支援、声掛け見守り運動等積極的に協力しております。

高令者対策では、ほっとラインの会の充実に努めております。

また、自治連合会の基本理念の一つであります「自由な雰囲気の漂う街づくり」に沿って自治連合会、各種団体と共々協力し構築していきたいと思っております。

来年度は山の手倶楽部発足二十周年を迎えますので、何か新しいイベントを計画したいと考えております。

会員の皆様のご支援、ご協力をお願いする次第でございます。

山の手倶楽部

会長 乗本 政三

2. 文化芸能祭カラオケ出演申込みの案内

文化委員 中口 利秋

今年度、区老連主催の文化芸能祭が9月10日～11日にウエスティで開催されます。そのうち、芸能祭は11日(日)に開催され、例年桂坂学区から同好会よりカラオケやコーラスなどに出演してもらっています。今年度は、このカラオケ2名の出演を、一般の会員から募集したいと思っています。宴会ともなればマイクを放さないあなた。音響設備の整ったウエスティの舞台でスポットライトを浴びませんか。

お申込みは、先着2名5月中に

文化会員 中口 利秋 ☎ 331-7131 にご連絡下さい。

同好会だより

1. 美しいダンスパーティ

社交ダンス同好会 岡 頼男

今では、恒例となっている西京区老連主催の社交ダンスパーティが今年も3月31日に、ウエスティで開催されました。

小雨がちらつく早春の一刻。常連のメンバーが続々と集まってきました。優しいメロディーが流れる中、老人会とは見えない美しい衣装を身につけた女性たちが軽やかなステップで笑顔をふりまいてゆきます。桂坂の同好会のメンバーも会場狭しと踊りに夢中です。

しばらくして、三つの学区のダンス同好会のフォーメーションの発表が行われました。先ず最初に桂学区のささ舟のみなさんによるジルバとチャチャチャ。リズムの良いダンスを披露。次が桂坂Aグループのダンス。ルンバです。ルンバは男と女の恋を表した、切なくも美しい踊りです。

三番目が福西学区のワルツの発表。よくまとまって流れるようなダンスでした。最後に桂坂Bグループの発表です。会場から大きな拍手の波が、いつ迄もいつ迄も続きました。その後、めぐり合いダンスでお互いが友情を深めました。

パーティの締めくくりは、抽せんでお花のプレゼント。良い花を手にした方は大喜び。参加者全員がお花を持って帰りました。楽しい楽しい一日でした。

社交ダンスはある意味で、青春の心を取り戻すことのできる健全なスポーツです。ヒザの痛い人も、腰の良くない人も一生懸命にレッスンをします。その事で健康な身体を取り戻す良いスポーツです。

毎週水曜日、10時から12時まで、新林センター(Aコープ2階)でレッスンしています。どうぞ見学に来て下さい。楽しいですよ、ではネ。❤️ ❤️

その他のお知らせ

1. 第19回総会開催

事務局 西澤 四郎

今年度、第19回総会が、去る4月17日ふれあい会館で開催されました。会員93名の出席を得て、第1倶楽部の中口利秋さんの司会で、最初に物故された石田久夫さん、喜多康雄さん、倉田昭子さん、佐野正次さん、高木昭さんのご冥福を祈り全員で黙祷をし、次に乗本会長の挨拶で始まりました。

総会の議長には第4倶楽部の岡頼男氏が選出され、各議案は修正なく承認されました。その後、新年度乗本会長から、来年度は当倶楽部発足20周年に当たり、新しい取り組みをしたい旨述べられました。



最後に、米寿を迎えられた杉上裕司さん、細居修三さん、岡田幸代さん、中村綾子さんの表彰で、会は終わりました。総会の後、安井桂坂消防分団長より、火災予防のお話がありました。

今回の総会では、プロジェクターと言いますが、画像をスクリーンに映し出し議事進行の案内をさせてもらいました。これが動画にでもなれば、もっと興味のある総会になるのではと考えています。



2. 親睦会

親睦会担当 岡村 英明



第19回総会の後、2階大枝の間に会場を移し、乗本会長の挨拶に続いて田中副会長の乾杯で親睦会が始まりました。長谷川文彦委員の司会進行もスムーズに新会員の紹介をはさんで、そこかしこに歓談の輪がひろがりました。

その後、ビンゴゲームを全員で楽しみ、2時半頃、岡村英明委員の一本締めで親睦会はお開きとなりました。今年は、ふれあい会館の食堂の皆さんが特に吟味したお弁当が好評で「これなら同好会の会合もここで・・・」と早速予約の問い合わせもあったようです。

山の手倶楽部は会員増が見込まれていますので、この会場を使用する来年の親睦会までに、椅子、テーブル等の設備増をお願いしたいと思っています。



3. 単位倶楽部再編成の経緯について

事務局長 八木 兵司

先日開催されました定例総会で、4単位倶楽部を5単位倶楽部に再編成することを決めて頂きましたが、ここでその経緯をご紹介致します。

従来から、毎年京都市より老人倶楽部補助金(186,240円)を受けていますが、今年度よりこの補助金支給制度が変更になりました。

また、これより先(平成21年6月)に単位老人倶楽部の最低会員数が50名より30名に変更になり、補助金を受けるためには最低50名の会員が必要でしたが、これが30名になりました。従来は50名以上の単位倶楽部当たり一律46,560円の補助金が支給されていましたが、この度の支給基準改定で以下のように会員数によって補助金額が変わることになりました。

30～49名 23,280円(現行単価の0.5倍)

50～79名 46,560円(現行単価)

80名以上 69,840円(現行単価の1.5倍)

単位倶楽部の最低会員数が30名に変更になった段階で、当倶楽部の単位倶楽部間の会員数のアンバランスを解消するために全面的な再編成を検討して、一時6単位倶楽部制の案を起案しました。しかし、その後補助金支給基準の改定が決まり、6単倶楽部にすると夫々が会員数50名以下となり、補助金が従来より大幅に減少することが分かりました。

従って、今回は人数が多くなって運営に支障が出始めている第4倶楽部を2分割するのに留めて、5単位倶楽部制とすることに致しました。今後も会員の動向が変化していくと思われますので、必要に応じて見直しをしていくことに致します。

4. 同好会の会員数等の動向について

事務局長 八木 兵司

先の定例総会案内の際に各会員の同好会加入状況を提出して頂きましたが、その結果が集約出来ましたので概要をご紹介致します。但し、この集計は調査用紙を提出して頂いた分の集約ですので、未提出の方が含まれていない点にご留意ください。

最も会員数が多いのは「グラウンド・ゴルフ」の47名で、「ゴルフ」の38名、「日帰り探訪」の37名、「コーラス」の35名がこれに続いています。そして、20名台の同好会として、「ハイキング」、「書道」、「マージャン」、「歩こう会」が続きます。以下、10名台の同好会として、「絵画」、「囲碁・将棋」、「写真」、「社交ダンス」、「カラオケ」が続きます。10名以下の同好会は、「俳句」と「謡曲」となっています。

一人で7つの同好会に入っておられる会員を筆頭に、多くの会員の方が複数の同好会で活躍されています。未加入の方も是非お好きな同好会に入って仲間との交流をお楽しみ下さい。

また、新たな同好会の希望として、「家庭菜園」、「パソコン」、「ペタンク」、「三味線」、「卓球」、「短歌」、「一泊旅行の復活」等が出されています。これらにつきましては、今後の課題として役員会等で検討していく事に致します。

5. ご連絡

会計 西澤 四郎

今年度、山の手倶楽部の会費 1,800円を、5月10日（月）に、京都中央信用金庫のご指定口座より引落しさせていただきますので、よろしくお願ひします。

会員投稿欄

黒板の移り変り

あかしあ 青井 勇

新学期が始まり小学生から大学生まで、教室に入り椅子に座れば先ず向き合うのが黒板。黒板なしでは授業が始まりません。

小学生が社会科の勉強で、よく工場見学に来ます。その時一番多い質問は「緑色なのに何で黒と言うの」？昔からその様に言われて固有名詞になっていると言えばそれまでですが、何か基準があるはずだと調べたところ、昭和29年JIS（日本工業規格）の黒板の項目にチョークで書き消しする。とあり、そこが基準ではないかと思ひます。マーカーで書く物は黒板とは言ひません。

それでは元の黒色から緑色になったのは何時頃かと言うと、私が聞いた話では昭和4年にポーリス設計が神戸女学院を設計した時始めて緑色の黒板を納入したと、その頃からではないかと思ひます。では何故緑色に変わってきたのか、これも色々言われていて定かではありませんが、一説には目に良い色、目が疲れた時遠方の山野の緑を見ると疲れが取れる。また建築が変わり木質そのままの教室には黒板でも気にならなかったのがペンキ塗りでカラフルになると緑色の方が良く合ひます。昭和20年戦後の学校建築はほとんど緑色だったと思ひます。それでは緑色ばかりかと言うと、設計者によっては生徒の気分転換にと特別教室の音楽室にはセピア、家庭科教室にはブルー等と変わった色を使う事もあります。更に最近は灰色。授業にオーバーヘッド等映像機器を使うその時スクリーンを使わず黒板に写し、チョークで書き加える様な時、灰色が一番綺麗に写る為です。緑色では赤が出ない。

次に型状と材料がどの様に変ってきたか。始めて黒板が出始めた頃はその地域の木材何でも使って大工さんが作ったと思ひます。その為寸法も決まっています。それが使い勝手の要求に応じ畳一枚くらい大きさになり、また先生が教えるだけの授業から生徒にも書かせる授業に変わってくると、小さいので二枚を並べて3.6mとなり。継目は合わせ目が邪魔で書き辛いと、一枚物になる。高さも1.2mと大きくなりこの寸法が標準です。巾の広い物もありますが。塗料も、また随分変わりました。始めは油煙に軽石の粉などを柿渋で練って塗った物。習字の後で墨汁を集めて塗った記憶のある人も居るのでは。板面が大きくなるにつれて使われだしたのが杉板。これは非常に手間が掛かります。塗料も対馬石の粉を生漆で練り表面に砥石で研ぎ化粧仕上した。美術工芸品並の製品でした。戦争で漆が配給になり、やむなく代用品で暫くはつくっていましたが、合成樹脂塗料が色々出てきたので、今はほとんどその様な塗料です。JISでは杉板製品と楢合板製品があります。その後は、接着剤が良くなり、ラワン合板でもよくなりました。33年頃からはスチールを表面に張る黒板に。マグネットシートが教材に使われだしたために。また書いた文字が光って見えないのを防ぐため曲げた黒板も34年頃から出始めました。今はほとんどスチールの曲面黒板と思ひます。

今年度行事予定

6/12 (土)	区老連囲碁将棋大会	ふれあい会館	9/未定	ふれあいトーク	ふれあい会館
8/29 (日)	第1回合同会議	ふれあい会館	10/25 (月), 26 (火)	区老連一泊旅行 上諏訪温泉	
9/4 (土), 5 (日)	市老連作品展	みやこメッセ	10/28 (木), 29 (金)	趣味の作品展 中信2階	
9/10 (金), 11 (土)	区老連文化芸能祭	ウエスティ	11/13 (土)	区老連カラオケ	ふれあい会館
9/18 (土)	カザラッカ	桂坂小学校	1/8 (土)	新年互礼会	ふれあい会館
9/未定	市老人クラブ大会	京都会館	3/6 (日)	第2回合同会議	ふれあい会館

今年度の編集委員 八木兵司 安楽つねみ 岡村英明 足立郁男 西澤四郎